

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性がある方で、研究に関するご質問、診療情報等を研究に利用または提供されることを希望されない場合には、下記の問い合わせ先まで、お問い合わせ下さい。

研究課題名	未治療進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するプラチナ製剤＋ペメトレキセド＋ペムブロリズマブの効果に関わる因子についての多施設共同後向き研究
当院の研究責任者	呼吸器内科医長 長 彰翁
他の研究機関及び研究責任者	大阪はびきの医療センター 肺腫瘍内科 鈴木 秀和
本研究の目的、研究の方法 (対象者、利用する試料、情報等)	<p>1) 肺がんについて がんは進んだ現代の治療でも根治することが難しい病気の1つです。特に手術や放射線治療などで根治できるステージでない、いわゆるステージ4の進行肺がんは根治率がさらに低下してしまいます。しかし、近年、オプジーボやキイトルーダなどの免疫チェックポイント阻害薬という新たな薬剤の普及により、10年以上にもわたって生存されている患者さんも見られるようになってきました。しかし、そのような患者さんはまだまだ少ないのが現状です。</p> <p>2) プラチナ製剤＋ペメトレキセド＋ペムブロリズマブ療法について プラチナ製剤＋ペメトレキセド＋ペムブロリズマブ療法は抗がん剤と免疫療法を併用した治療法になります。このような治療は免疫複合療法と呼ばれ何種類かが保険承認されており、最も効果がある治療法の一つとなっており長期効果が期待されています。しかし長期効果がみられる患者さんの特徴は完全に解明されているとは言えないのが実情です。</p> <p>3) 本研究の意義と目的 上記のように、長期効果がみられる患者さんの特徴は完全に解明されていません。しかしペメトレキセドの効果予測因子として、がん組織をTTF-1という抗体で染色される場合に効果が高いとされています。またPD-L1という抗体で染色される場合もペムブロリズマブの効果が高いとされています。そのほか特定の因子を組み合わせることで、効果がどれくらい期待できるかの判断材料になる可能性があります。</p> <p>4) 対象となる方 2018年12月から2020年6月末までに進行・再発非扁平上皮非小</p>

	<p>細胞肺癌と診断されプラチナ製剤+ペメトレキセド+ペムブロリズマブで初回治療を開始した方。なお術後再発で、プラチナ製剤による術後補助化学療法最終投与日から半年以上たっている方になっています。</p> <p>5) 具体的な研究手法 患者さんのカルテから情報（年齢、性別、治療内容など）を収集し、生存期間などについて解析します。</p>
試料、情報等の他研究機関への提供及び提供方法	下記「個人情報の取り扱い」をご確認ください。
研究期間	2023年11月1日 ～ 2025年12月31日
個人情報の取り扱い	<p>対象者の情報は研究代表施設（大阪はびきの医療センター）に情報提供します。しかし、お名前などのあなたを特定できる情報の代わりに、研究用の符号をつけることで絶対に個人を特定できないように行います。</p> <p>その他、この研究が適切に行われているかを確認するために関係者がカルテなどを見ることがあります。また、この研究で得られた結果は、貴重な資料として学会や医学雑誌等に公表されることがあります。これらの場合もプライバシーは守られます。</p>
本研究の資金源及び利益相反	利益相反なし。
お問い合わせ先	<p>公立学校共済組合近畿中央病院 呼吸器内科 長 彰翁</p> <p>住所：〒664-8533 兵庫県伊丹市車塚3丁目1番地</p> <p>電話番号：072-781-3712</p>
備考	